

令和 元 年度

(様式1)

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970500623	
法人名	医療法人 芙蓉会	
事業所名	グループホーム芙蓉	
所在地	山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1	
自己評価作成日	令和元年8月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桃畑・県立森林公園に隣接していて、春は桃と桜のコラボレーション、夏は新緑、秋には紅葉狩りが楽しめます。中庭からは、その景色を目の前に観ることができ、天気の良い日には、ガーデンランチを行います。一度に五感を刺激することができます。また、自然の中でありながら、徒歩圏内にショッピングセンターやホームセンターがあり、散歩の途中に買い物ができる環境にあります。散歩や季節の行事等で活動量を増やし、生き生きとした生活をサポートします。平屋の形状を活かし各ユニットの入居者様が互いのフロアを行き来し交流を深めています。また地域の方々との関わりが持てようボランティアの受け入れをしたり、地域の祭り等の行事への参加をしています。1日1日が充実し、家族のような親しみのある関係づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体の法人はクリニック、介護老人保健施設を運営している。事業所は国道20号勝沼バイパスから少し入った場所にあり、木造平屋造りで中庭を囲んだ2ユニットになっている。建物は木の温もりが感じられるゆったりとした造りになっている。歩いて行ける範囲内に商業施設や公園があり暮らしやすい環境にある。中庭の掃き掃除を日課としている方や物品の受け取りをして職員に手伝う方など、利用者一人一人を尊重した生活を実践している。また、地域のボランティアの受け入れや保育所の子どもたちをはじめ、行事や外出をとおして地域との交流の場を設け、食事も利用者と共に手作りし、家庭的でその人らしい生活を送れるよう日々支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム美蓉		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHとしての理念や目標について、職員会議等で見直しを行い、周知すると共に事務所に掲示し、共有し実践している。	GHとしての理念や目標について、職員会議等で見直しを行い、周知すると共に事務所に掲示し、共有し実践している。	法人の理念を事業所理念として事務所に掲示しており、日頃から職員の意識づけをしている。また、毎月行っている職員会議の中でも話し合いの機会をもち、全職員が共有して支援に努めている。地域密着型サービスとして地域の中でその人らしく暮らし続けられるような事業所独自の理念を検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会を開催している。市内の保育園児には、クリスマスなどの行事の際に協力していただいている。社協と連携し、体操、演奏会、フラダンスなど地域のボランティアに協力してもらい交流を行っている。	月に一度、歌の先生(ボランティア)による歌会を開催している。市内の保育園児には、クリスマスなどの行事の際に協力していただいている。社協と連携し、体操、演奏会、フラダンスなど地域のボランティアに協力してもらい交流を行っている。	地域住民の一員として区に入会しており、祭りの案内や行事等の情報を得ている。地域の保育園児と一緒に季節の行事をしたり、市の社協に依頼して地域のボランティアを積極的に受け入れている。ボランティアの中には利用者と顔見知りの人もいて交流する機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるように努めている。地域行事等へ入居者様と一緒に参加している。年2回の広報誌を作成し、地域の方へ認知症の方の理解を深める機会となっている。	中学生・高校生の職場体験実習の依頼を受けている。認知症のお年寄りの接し方や病気に対する理解を深めていただけるように努めている。地域行事等へ入居者様と一緒に参加している。年3回の広報誌を作成し、地域の方へ認知症の方の理解を深める機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。市役所職員・民生委員・入居者家族・入居者代表が出席し、事業報告や行事の写真を観ていただき、情報交換をおこなっている。	2ヶ月に2回、運営推進会議を開催している。市役所職員・民生委員・入居者家族・入居者代表が出席し、事業報告や行事の写真を観ていただき、情報交換をおこなっている。	会議を2か月に1回開催し、市の担当者、民生委員、家族の代表、利用者が参加している。事業所からの報告とともに参加メンバーからも意見や要望等を受けている。民生委員からの助言で区に入会した。家族からは防犯対策について質問があり、警備会社との連携を説明し情報交換することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所代表の方には、2ヶ月に1回の運営推進会議に出席していただいている。市役所で開催している連絡協議会への参加している。わからないことや困りごとは、直ぐに連絡をとり相談するようになっている。	市役所代表の方には、2ヶ月に2回の運営推進会議に出席していただいている。市役所で開催している連絡協議会への参加している。わからないことや困りごとは、直ぐに連絡をとり相談するようになっている。	運営推進会議への出席や定期的開催している市の連絡協議会に出席して、市職員との関わりを築いている。生活困窮者の相談や事業所の空状況、入居者状況等事業所の実情を伝え、相談に応じてもらえるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の錠錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員全員に配布し、定期的研修もおこなっている。玄関は自動錠錠であり、自由に出入りはできないが、職員といつでも一緒に出られるように対応している。中庭は自由開放している。	身体拘束マニュアルを職員全員に配布し、定期的研修もおこなっている。玄関は自動錠錠であり、自由に出入りはできないが、職員といつでも一緒に出られるように対応している。中庭は自由開放している。	法人の身体拘束マニュアルもあるが毎月の職員会議でテーマを決めて研修している。身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し、スピーチロックを含め拘束をしないケアに努めている。玄関は錠錠であるが出て行く気配がする時は、さりげなく声を掛けて一緒に歩いて行くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。研修も行っている。	高齢者虐待マニュアルを職員全員に配布している。虐待となる行為や兆候を示すサインなどの把握に努めている。研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム美蓉		[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口がある情報を伝えている。ホーム内にはご意見箱を設置している。ご家族の面会時にはお声をかけて、意見を伺うようにしている。	苦情窓口がある情報を伝えている。ホーム内にはご意見箱を設置している。ご家族の面会時にはお声をかけて、意見を伺うようにしている。	面会時に日頃の利用者の様子を伝え、家族からも話を聞くようにしている。家族等からの意見、要望は職員会議で伝えたり、申し送りノートに記録している。席の交換をして利用者が安定できる環境を作る等、家族も安心して納得が得られるように対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議にて、職員の意見や要望をきく機会を設けている。	月に一度職員会議にて、職員の意見や要望をきく機会を設けている。	職員会議は2ユニット一緒に行い、職員から意見や要望を聞いている。物品購入や修理に関する意見が出て対応している。職員の勤務体制についての要望を出し、業務改善に繋げた。また、職員の交流の機会を設け連携や意欲の向上につながっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が無理なく勤務できるように、極力勤務の希望を聞き入れ勤務できるように配慮している。	職員が無理なく勤務できるように、極力勤務の希望を聞き入れ勤務できるように配慮している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。	同法人の研修会・市の連絡協議会・その他外部の研修に参加し、理解を深めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会への参加を促している。参加した職員は、他施設の同業者や他職種の方と話すことで大変刺激になると感じており、今後のケアに活かしていきたい。	外部の研修会への参加を促している。参加した職員は、他施設の同業者や他職種の方と話すことで大変刺激になると感じており、今後のケアに活かしていきたい。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず入居者と面談する機会を設けている。その時入居者が暮らしている環境をみることで、家族や介護者の方々からお話を伺うようにしている。	入居前に必ず入居者と面談する機会を設けている。その時入居者が暮らしている環境をみることで、家族や介護者の方々からお話を伺うようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に入居者とご家族と面談し、認知症発症の経過、不安に思っていること・困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。	入居前に入居者とご家族と面談し、認知症発症の経過、不安に思っていること・困っていること等伺い、一緒に考えながら信頼関係を深めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。	入居前の面談・ホーム内見学の段階から、ホームの取り組みについて説明し、契約時は重要事項説明書を基にわかりやすく説明している。不明な点は随時話し合う機会を設けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰か・会社の同僚など認識もまちまちなので、個々に寄り添い接している。	入居者にとって職員は、きちんと職員と認識されている方もいれば、家族の誰か・会社の同僚など認識もまちまちなので、個々に寄り添い接している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム美蓉		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族と連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。	入居者に安心して過ごしていただくために、ご家族と連絡を密にし、可能な限り協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の協力で、お墓参りや行きつけだった美容院に出掛けている。時には息子さんと一緒にパチンコに行く方や、知人と温泉に行く方もおり、これまでの関係を継続している。	ご家族や知人の協力で、お墓参りや行きつけだった美容院に出掛けている。時には息子さんと一緒にパチンコに行く方や、知人と温泉に行く方もおり、これまでの関係を継続している。	入居前から利用している美容院に家族と一緒にったり、知人との温泉やカラオケ仲間との外出をしている。また、以前住んでいた地域の人や近所の人との訪問もあり、つながりを継続出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が関わりのある、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、心配事があれば一緒に考えてくれる場面がある。食事の場面では、おかわりの促しや、口を拭いてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。	入居者同士、心配事があれば一緒に考えてくれる場面がある。食事の場面では、おかわりの促しや、口を拭いてあげる場面もあり、支え合い暮らしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居された方は、その後面会して経過を見守っている。長期入院のため契約解除した方に関しては、病状が改善した際、優先的に受け入れをしている。受け入れ困難な場合でも、情報を提供して困ることのないように支援している。	入院や他施設へ転居された方は、その後面会して経過を見守っている。長期入院のため契約解除した方に関しては、病状が改善した際、優先的に受け入れをしている。受け入れ困難な場合でも、情報を提供して困ることのないように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しては、発した言葉や言動を見逃さないようにし、ケアのヒントにしている。	入居前に得た情報から、希望・意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に関しては、発した言葉や言動を見逃さないようにし、ケアのヒントにしている。	入居時に利用者及び家族の生活に対する意向を書面に記入してもらっている。また、入居前に自宅訪問して生活環境を見ながら利用者に思いや暮らし方の希望等話を聞いて意向の把握をしている。困難な場合は、発した言葉や言動を見逃さず、家族から聞いた情報も含めて導き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、生活歴や生活習慣の聞き取りをし、認知症を患う少し前の暮らしに近づくことができるように努めている。	ご本人やご家族から、生活歴や生活習慣の聞き取りをし、認知症を患う少し前の暮らしに近づくことができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察記録を日に変動がわかるようにして、心身状態の把握に努めている。特に不安定な方・重要なことを伝える場合は、申し送りノートを活用している。	観察記録を日に変動がわかるようにして、心身状態の把握に努めている。特に不安定な方・重要なことを伝える場合は、申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成は、ご本人・ご家族から今後の意向を伺い、短期目標6ヶ月・長期目標は1年で見直し作成している。変化があったり、問題が発生した場合は、スタッフ間のカンファレンスにて、随時修正している。	計画作成は、ご本人・ご家族から今後の意向を伺い、短期目標6ヶ月・長期目標は2年で見直し作成している。変化があったり、問題が発生した場合は、スタッフ間のカンファレンスにて、随時修正している。	入居前に関わりのあったケアマネジャー、家族、本人から思いや意見を聞き介護計画を作成し、モニタリングに基づき3か月で見直しを行っている。毎月のケア会議では、アセスメントを含め全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行ない6ヶ月毎に見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録に日々の様子や気づいたことを記録している。直ちに共有しなければならないことは、申し送りノートを活用している。	観察記録に日々の様子や気づいたことを記録している。直ちに共有しなければならないことは、申し送りノートを活用している。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム美暮

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。	急な事情により生じたニーズに対しても、できる限り臨機応変な対応を考慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生委員の紹介でボランティアの方を行事の時に迎えたり、老人会の情報をいただいたりしている。	地域民生委員の紹介でボランティアの方を行事の時に迎えたり、老人会の情報をいただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者は、月2回の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけがあり継続希望の場合は、優先している。歯科の来訪もある。必要に応じて専門医へ受診の援助も行っている。	殆どの入居者は、月3回の訪問診療を受けている。入居前からのかかりつけがあり継続希望の場合は、優先している。歯科の来訪もある。必要に応じて専門医へ受診の援助も行っている。	訪問診療や以前からのかかりつけ医を利用者、家族が希望するかかりつけ医としている。かかりつけ医は基本的には家族同行の受診となっている。その際には、日頃の様子を書面にて渡している。変化がある場合は主治医から連絡がある。また、訪問看護師が定期的に来て利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、医師の診療とは別の週に訪問看護がある。アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は訪問看護師から医師に伝えてもらっている。	月3回、医師の診療とは別の週に訪問看護がある。アドバイスをいただいたり、緊急性のある場合は訪問看護師から医師に伝えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーにて、身体状況や疾病の経過など、情報提供を行っている。入院中はお見舞いに伺い、ご本人の様子を確認している。治療の期間や退院の見通しなど、ご家族と共に相談員や担当看護師との話し合いに参加させていただいている。	入院時は介護サマリーにて、身体状況や疾病の経過など、情報提供を行っている。入院中はお見舞いに伺い、ご本人の様子を確認している。治療の期間や退院の見通しなど、ご家族と共に相談員や担当看護師との話し合いに参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関する指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合は、主治医も交えて今後の方針について話し合う。看取りが想定されるケースの場合は早めに話し合っている。	入居時に「重度化対応・終末期ケアに関する指針」を説明し、同意していただいている。入居者の状態に変化があった場合は、主治医も交えて今後の方針について話し合う。看取りが想定されるケースの場合は早めに話し合っている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の対応を説明し同意を得ている。住み慣れた事業所での看取りを家族が希望した場合は、医師、看護師、職員が連携をとり、対応できるようにしている。また、利用者の状況の変化のたびに、家族等と話し合いの機会を持ち随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、AEDを設置したので、職員全員講習を受けている。内部では、止血、意識レベルについての勉強会を行うなど、スキルアップにつとめている。	年に2回、同法人内で行われる救急訓練に参加している。また、AEDを設置したので、職員全員講習を受けている。内部では、止血、意識レベルについての勉強会を行うなど、スキルアップにつとめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。出火場所や日動想定・夜動想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内の見学や、入居者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう、協定を結んでいる。	年に3回、防災訓練を行っている。出火場所や日動想定・夜動想定と場面を変えて行っている。地域の消防団には来訪してもらい、ホーム内の見学や、入居者の状況について理解してもらっている。区長とも相互協力できるよう、協定を結んでいる。	年2回、火災を想定して警備会社立ち合いの基で、昼夜を想定して避難訓練を実施している。地域の協力体制としては、消防団員が変わることがあるので年に1回は事業所に来て、事業所内の見学や利用者の様子を確認している。また、災害時地域の高齢者の避難場所として提供している。	項目にもあるように、火災のほか地震、水害等の災害にも昼夜を通して避難訓練が必要であり、いざという時に確実な避難誘導ができるように、職員と利用者が一緒に訓練を積むことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ない言葉かけや対応をしている	個々の利用者に合った、馴染みややすい言葉かけで対応している。長期間係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。	個々の利用者に合った、馴染みややすい言葉かけで対応している。長期間係での馴れ合い過ぎには、注意を促している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、呼称についても配慮している。トイレ誘導の声掛けや失敗してしまった場合でも、本人を傷つけないよう周囲にも気をつけた対応を行っている。居室に入る時も声を掛けるように心がけている。書類等は事務所で管理しプライバシーの保護を徹底している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム美蓉		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好む好まないことの把握に努めている。	意思表示ができる入居者に関しては、決める機会を作っている。意思表示が難しい入居者に対しては、好む好まないことの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間を変更し、無理強いはないように配慮している。	心身の変化で起床・食事・入浴時間など、決まった時間での行動が不可能な場合は時間を変更し、無理強いはないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。	介護しやすいジャージやスウェットには極力せず、今まで着ていた好みの洋服を着ている入居者が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。入居者はテーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むき・洗い物を職員と一緒にしている。手伝いが出来ない入居者も、料理は一から手作りなので、言や匂いを感じる事ができる。	入居前に嗜好を伺い、アレルギーや苦手なものへの配慮をしている。入居者はテーブル拭き・配下膳・野菜切りや皮むき・洗い物を職員と一緒にしている。手伝いが出来ない入居者も、料理は一から手作りなので、言や匂いを感じる事ができる。	法人の管理栄養士が作成した献立を基にして、利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューにしている。食事は職員が交代で調理し、利用者も調理の手伝いや後片付け等々の力を活かしながら職員と一緒にしている。食材は業者に発注しているが、時には利用者と一緒に買い物に行く時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が作成した献立を基に、メニューを決めている。入居者の嗜好・障害に合わせた形態で食事を提供している。	同法人の管理栄養士が作成した献立を基に、メニューを決めている。入居者の嗜好・障害に合わせた形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの口腔内の状況を把握し、毎食後にケアができるように支援している。口腔内トラブルがあれば、直ぐに訪問歯科に依頼し対応している。	入居者それぞれの口腔内の状況を把握し、毎食後にケアができるように支援している。口腔内トラブルがあれば、直ぐに訪問歯科に依頼し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導等個別支援をしている。入院をきっかけにオムツ着用になってしまった方に対しても、排尿誘導にてオムツを外せるよう支援している。	排泄パターンは観察記録に記入し、把握に努め、誘導等個別支援をしている。入院をきっかけにオムツ着用になってしまった方に対しても、排尿誘導にてオムツを外せるよう支援している。	排泄を記録し利用者一人ひとりのパターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。居室の隣にトイレがあり、使い易く安心感がある。また、退院後の利用者がトイレ誘導することでおむつを使用しないようになり、夜間はパットの大きさを替えるなどして、出来るだけおむつを使用しない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や飲便)をしている。	便秘症で管理が必要な方に対しては、個々に応じた対応(内服の調整や飲便)をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常週3回の入浴援助を行っている。午後の時間帯だが、体調や都合にも柔軟に変更できるように対応している。入浴嫌いで、決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいと言ったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。	通常週4回の入浴援助を行っている。午後の時間帯だが、体調や都合にも柔軟に変更できるように対応している。入浴嫌いで、決まった時間に入浴することが難しい方は、入りたいと言ったタイミングを逃さないように、柔軟に対応している。	日曜日以外いつでも入浴が可能である。基本的には週3回、午後からとしているが利用者のその日の希望に応じて午前中に入浴することもある。入浴を拒む利用者には、タイミングや声掛けの工夫で入浴を促している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム芙蓉		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東館)	ユニット名(西館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドや寝具は、基本レンタルだが、入居時に希望を伺い、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。	ベッドや寝具は、基本レンタルだが、入居時に希望を伺い、馴染みのベッドや寝具を持ってきていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報は、すぐ見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付けかわえている。	内服情報は、すぐ見ることができるように、ファイルしてある。処方が変わった時は、申し送りノートに記載し、副作用等注意が必要な事柄は付けかわえている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの制作や、行事への参加を促している。喫煙・飲酒など、嗜好面もできるだけ考慮している	季節ごとの制作や、行事への参加を促している。喫煙・飲酒など、嗜好面もできるだけ考慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回、職員と入居者2,2での外出外出援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮して行き先を決定している。近所の公園へは随時出掛けている。	年に2回、職員と入居者2,3での外出外出援助を行っている。入居者の身体機能や希望を考慮して行き先を決定している。近所の公園へは随時出掛けている。	日常的に事業所周辺を散歩したり、中庭のベンチに腰かけたりと短時間でも戸外に出よう心がけている。近所のホームセンターでは犬や猫を見て和んだり、売られている花を見て季節を感じるなど楽しんでいる。近くにある公園では、将棋をしている人達と馴染みの関係が出来ている。希望に応じて普段は行けないような場所にも少グループで外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理している方は数人いる。能力に応じて支払いもしていただくが、殆どの方は、ご家族が管理している。	小遣いを管理している方は数人いる。能力に応じて支払いもしていただくが、殆どの方は、ご家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には支援している。手紙についても、届いたものへの返事を出す支援をしている。	電話をかけたいと希望される方には支援している。手紙についても、届いたものへの返事を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテレビを囲んで大きなソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来しやすく、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	居間にはテレビを囲んで大きなソファが置いてあり、入居者と職員が一緒にくつろいで過ごしている。食堂にも行き来しやすく、廊下には行事の写真や季節の制作物を飾り、四季を感じる工夫をしている。大きなサッシの向こう側は中庭で、明るく開放的である。	共用空間はワンフロアで、対面式のキッチンがあり、テレビや利用者全員が座ることができる大きなソファも置かれている。木の温もりを感じる室内は、天窓や壁一面がアルミサッシの為明るい。ユニット間に中庭がありフロアから見渡せ開放的で季節を感じながら過ごしている。また、利用者の共同作品や写真が掲示され活動の様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同志は居間や食堂で過ごしている。一人になりたい方は、居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して定位置にしている方もいる。	気の合う同志は居間や食堂で過ごしている。一人になりたい方は、居室や廊下、中庭の居心地のいい場所を確保して定位置にしている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいる。こたつを立てて、自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したり、お仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている。	家で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいる。こたつを立てて、自宅にいた時のように過ごせるよう工夫したり、お仏壇やお位牌を持ち込み、毎日水を換えている。	2ユニットの居室は、全部屋フローリングで押し入れ、カーテン、エアコン、ベッドが備え付けである。利用者が安心して過ごせるように使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ち込んで配置し、それぞれの利用者が居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひとやすみできるように配慮している。	バリアフリーで手すりがついている。長い廊下を自由に行き来できるように、所々に腰かけを置き、ひとやすみできるように配慮している。		